寅彦の情報あれこれ

【化学者・近重真澄】

『土佐史談』第 277 号（2021 年）に森本琢磨氏による「高知から世界へ　化学者・近重真澄」が発表されている。近重は明治 3 年 9 月高知市生まれ。東京帝大理科大化学科を卒業後大学院に進み、明治 29 年 7 月に卒業、五高の教授になっている。31 年 12 月に京都帝大理工科大の助教授に異動。38 年から 41 年にかけてドイツ（ゲッティンゲン）、イタリアやフランスに留学。無機化学や金相学を研究した。帰国後教授に就任し、同大学の発展に尽くしたが、退官後は文化人として生活したとのことである。

この近重もまた寅彦と五高時代（寅彦が 1・2 年の時）を共にしている。寅彦の日記で紹介する。

最初は明治 31 年 1 月 1 日、自宅を訪問したが、転宅していた。4 月 5 日には「昼飯后近重先生を訪ひ例の化学談にて四時過迄居りマイエルノ理論化学ヲ借り来る」という記述がある。4 月には近重先生を土佐会の名誉会員に決めている。5 月には明十橋富重写真店で近重先生も加わって土佐会一同の記念写真撮影があった。

大正 3 年 3 月 21 日には「午後東一正二をつれ博覧会に行く　近重先生に逢ふ、…」とある。この時、近重は京都帝大勤務であるが東京に出張していたことが分かる。昭和 16 年 11 月永眠。

【書籍紹介】

☆小宮豊隆『漱石先生と私たち』（2023年11月、中公文庫）

『漱石・寅彦・三重吉』（1942 年、岩波書店）と『人のこと自分のこと』（1955 年、角川書店）を底本にした文庫本。印象的な言葉を引用する。

「寺田寅彦は科学者として有名であった為に、その随筆も亦尊敬されていた傾向がある。然（しか）し寅彦の随筆は、寅彦が科学者としての後光を持っているいないに拘わらず、後世に残る価値を持っている。勿論寅彦が科学者であったという事は、寅彦の随筆の高さを形成する上に、重大な役目を勤めていたには違いない。然し寅彦は随筆を、科学者として書く前に、人間として書いた。寅彦の随筆の高さは、寅彦の人間としての高さである。」

【訃報】

本会の顧問であり高知大学名誉教授の梅澤俊一さんが昨年（2023）12 月にご逝去されました。享年 101 歳でした。

2005 年 5 月 21 日の総会で「寺田先生の周辺に触れながら」と題した講演をお聞きしたことが思い出されます。槲 46 号に記録があります。北海道帝大への入学時に中谷宇吉郎の講演を聞いたこと、戦後高知大学に赴任して小津町に住んだこと、寅彦邸の管理人を打診されたこと、南極観測で著名な永田武さんを案内しての墓参、昼顔文学碑の除幕式やご自身の「魚の呼吸」に関する研究などについて語られています。

2011 年から顧問となり、65 号には「寅彦邸と文学碑」を投稿されるなど、本会の事をいつも気にかけておられました。ご冥福をお祈り申しあげます。

☆講演会・総会のお知らせ☆

令和 6 年度寺田寅彦記念館友の会講演会・総会を下記の日程で行います。

日時　令和 6 年 4 月 21 日（日）

場所　寺田寅彦記念館

12：00～　役員会

13：30～　講演会

講師：山田功先生　演題：X 線結晶学の祖 寺田寅彦がした実験をみんなで考える

＊読本「日本の X 線結晶学の祖　寺田寅彦～輝く先見性～」をお持ちの方は持参をお願いします。

15：00～　総会

役員の方は昼食を済ませてからご集合ください。